

製品名: AIF (11G15) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe06698**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:200,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:20-1:50,IP 1:20-1:50
分子量	67kDa

抗原情報

遺伝子名	AIFM1
別名	AIFM1; AIF; PDCD8; COXPD6;
遺伝子 ID	9131.0
SwissProt ID	O95831
免疫原	ヒト AIF の合成ペプチド

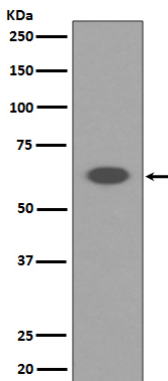
背景

この遺伝子は、アポトーシス細胞の核分解に必須のフラビンタンパク質をコードしており、健常細胞ではミトコンドリア膜間腔に存在します。アポトーシス誘導により、このタンパク質は核に移行し、染色体の凝縮と断片化に影響を与えます。NADH 酸化還元酵素として、またアポトーシス制御因子として機能します (PubMed:20362274、PubMed:23217327、PubMed:17094969)。アポトーシス刺激に応答して、ミトコンドリア膜間腔から細胞質および核へと放出され、そこでカスパーゼ非依存性経路におけるアポトーシス促進因子として機能します。核内に存在する可溶性型 (AIFsol) は、「パルタナトス」、すなわちカスパーゼ非依存性染色体 DNA 断片化を誘導する (類似性による)。DNA に配列非依存的に結合 (PubMed:27178839)。EIF3G と相互作用し、EIF3 機構およびタンパク質合成を阻害し、カスパーゼ 7 を活性化してアポトーシスを増幅する (PubMed:17094969)。過酸化水素に曝露された細胞におけるカスパーゼ非依存性の濃縮細胞死において重要な役割を果たす (PubMed:19418225)。一方、正常なミトコンドリア代謝に関与する。CHCHD4 と相互作用し、CHCHD4 のミトコンドリアへの輸入を制御することで、呼吸鎖生成の制御において重要な役割を果たす (PubMed:26004228)。

研究分野

細胞生物学

画像データ



K562 細胞溶解物中の AIF 発現のウェスタン ブロット分析。